

令和3年度東播磨新地域ビジョン検討委員会 第2回課題解決部会議事録

1 日 時 令和3年4月28日(水) 13:30~15:30

2 場 所 加古川総合庁舎5階 AB 会議室

3 参加者 12名(一般3名 行政9名)

4 内 容

(1) 課題解決部会・改善の方向性について

委員長) 自己紹介

改めましてビジョンの役割を少し説明いたします。皆さんご存知のとおりビジョンづくりは県民局単位で行うことになっております。2000年にビジョンを初めて作った時からの一つの伝統のようになっています。ビジョンの作り方は県民局に任されていますが、いくつか条件があって住民との協働であるとか参画をどこまで得られるか一つの大きな問題です。それぞれの県民局でやり方は違いますが、東播磨では若い人を中心としてアンケート調査を行ったり、ビジョンを語る会を通して住民の皆さんの意見を収集するという形でやっています。夢、未来をどう語っていくのかというのは一つビジョンとしてあります。

一方で2000年にビジョンを作っていますから、20年経ってどう評価されるのかということも当然あって、評価が出来るところ、十分達成出来ていなかったところは見ていくべきだろう。達成したところと達成出来なかったところ。達成出来なかったところは次、どうしていくのかということもあります。

そこで、この東播磨では二つに部会を分けました。一つが先ほど申したように若い方を中心として意見を募集し、あるいは語る会等を通して住民の皆さんと将来はどうあるべきか、どういう風な未来が見えてくるのかということを考えるのが「未来デザイン部会」、もう一つが2000年から取り組んできたことがどこまで実現されていて、出来ていなかったことはどうすれば良いのか、というのを考えるのがこの「課題解決部会」県民局でこの分け方は珍しいと思います。未来デザイン部会、課題解決部会どちらに出ても結構ですが、課題解決部会には行政の担当の方に入っていていただき、未来デザイン部会には市民の方に入っていていただくという分け方にしました。

理由は、計画行政とする考え方であるならば、その辺りについては市町での総合計画、各種計画を作られる中で、こうした手順、考え方の中では行政の方が適任だ

ろうというのが理由であります。繰り返しになりますが、課題解決部会に出ているからといって未来デザイン部会に出るはいけないという訳ではないですし、未来デザイン部会の方が課題解決部会に参加いただくことも何も問題ないという立場を取っているわけです。

というところがここまでの課題解決部会の取り組みでした。昨年度までに課題の整理をさせていただいて指標等を使って客観的な数値、エビデンスを用いながらどこまでできたのかについてビジョンで描かれている4つの将来像ごとに検証いたしました。今日またご報告いただく訳ですけど、その中で出来たこと、あるいは出来ていなかったことをちゃんと整理させていただくというのが昨年度までさせていただいて、本年度に入りましては出来なかったところはどのようにするのかというのを議論していかなければいけません。

本日は昨年度までの部会で行っていた検証結果を基にいたしまして東播磨地域の現状というところから、20年前と比較しての現状ですけどもあるいはもう少し前からかも知れませんが、比較しての現状が見えてきましたので課題を整理させていただいて、そこから次どうしていくのかを考えていこうということです。

ここまですご質問ありますでしょうか。特に初めての方はこういう風な議論をさせていただくということをご理解いただければと思います。そうしましたら資料①を使いまして、今回事務局の方でとりまとめていただきました課題についてご説明いただきたいと思います。

事務局) まず、資料①のご説明から簡単にさせていただきます。資料①「現状と課題・取組の方向性(案)」について、これまでの検討委員会、部会での議論などから、「現状と課題」として考えられるもの、それらの「取組の方向性」を案として作成しております。こちらでの（「現状と課題」の）「取組の方向性」が展開することで「30年後の将来像実現のための取組の方向性」が見えてくるのではないかと考えております。

各ページを方向性1～5にわけておりますが、次の資料②のところで、こちらのご説明をさせていただきます。

それでは、資料②の「東播磨地域 新地域ビジョン骨子案(案)」について。第1章「新地域ビジョン策定の経緯」、第2章「時代の潮流・背景」、順番に「1. 人口減少・超高齢化」、「2. 自然の脅威」、「3. テクノロジーの進化」、「4. 世界の成長と一体化」、「5. 経済構造の変容」、「6. 価値観と行動の変化」につきましては、東播

磨地域にも押さえておく必要がある社会潮流として「兵庫県将来構想試案」の大潮流から引用しております。

第3章「東播磨地域の特性」、「1. 東播磨地域のなりたち、自然、文化、歴史遺産」、「2. 東播磨地域の人々の動き」、「3. 東播磨地域の魅力」につきましては、データなどを元に作成しております。

こちらにつきましては、未来デザイン部会でのこれまでの議論を元にまとめて作成しております。まだ、検討中で確定ではありませんが、まず、「理念」として「水辺とものづくりでつながる未来」、次に「将来像」については、1つ目は、人に焦点をあてた「1. 自立・快適 東播磨」、つぎに、社会の基盤に焦点をあてた「2. 安心・活力 東播磨」、3つめは、背景（バックボーン）に焦点をあてた「3. 環境・交流 東播磨」を将来像としております。

「将来像を実現するための取組の方向性」については、5つにまとめております。

「1. 軽やかに動き、いきいきと暮らす」「2. ひとを育み、生きがいを実感できる」「3. 伝統と文化が息づき、交流が広がる」「4. 人・もの・情報がつながり、元気でにぎわう」「5. 自然を生かし、資源が循環する」こちらのそれぞれの方向性の取組に、先ほどの資料①の各方向性の取組が展開されたものが、30年後（2050年）の取組の方向性として落とし込めていければと考えております。

まだ、未来デザイン部会でも検討中のものですので、こちらについても、ご意見、ご提案などいただけましたらと思います。説明は、以上です。

委員長）先ほど書いていましたように課題検討部会の法は基本的には20年前に作ったビジョンに対してどこまでできたのかっていうことを検証していった。申し上げましたようにそれについては昨年度までにある程度終わっていて、見えてきた課題というのは出てきている。今度それを解決するためにはどうするかっていうと次のビジョン、今未来デザイン会議の方から素案を出してこられている。これに基づきまして、この課題はこの方向性で解決できるのではないか、この課題はこの方向性に沿って解決していくのが望ましいのではないかっていうのを議論しないと足下が固まらない。どういう風な今課題があるのか分ってきました、じゃあその課題をどう解決していきますか。これまでは前のビジョンにある4つの将来像から位置づけてきたわけですが、今度は新しいビジョンの方向性に沿って位置づけていかないといけない。4つの将来像が今回5つの方向性なのでそれに合わせて今の課題、資料①にございますのでこれを当てはめて解決の方向を考えていきましょう。こう

いった議論が進んでいるという風にご理解いただければと思います。

ここまでよろしいでしょうか、何かご質問がありましたら。副局長いかがでしょうか。

副局長) 先ほど説明した最後のページはまだ前回のデザイン部会で4月13日の議論したものです、まだ4月13日の議論は反映されていなくて、細かい物の言い方とかは色々ありましたが、1つの理念、3つの将来像、5つの方向性っていうのは大体この方向でいいのではないかという、ある程度の議論の方向性は見えてきたところです。今日の部会では先ほど部会長の方からご説明がありましたが、この5つの方向性に沿って現状と課題を見出しながらその課題を解決するためにどういった取り組みの方向性が良いのかというのを事務局として素案を作っておりますので、それについてご意見等をいただきたい。

委員長) ここまででご意見ご質問、言いたいことがあれば言っていたいただければ、コロナ対策でどこの市町もお忙しい中来ていただいておりますのでご遠慮なさらず

副局長) 合わせて言いますと、この現状と課題につきましてはこの部会で出た意見と今まで色々な住民や団体の方に聞いたアンケート等からそれぞれ住民の方、部会等が抱えている課題なり現状分析について書き記した物でございますので、必ずしも前回の部会で出た意見等は充分反映しているつもりですが、それ以外の意見があるというのはアンケート等から抽出したものです。

委員長) 委員、何か、よろしいでしょうか

委員) 矢印のつながり方はどうかと思うところはあるのですがこの部会です話ではないのでまた全体会で発言します。

委員長) そうしましたらこれから方向性別に見ていきたいと思います。最初に方向性1番の「軽やかに動きいきいきと暮らす東播磨」と書いていますように交通の問題とか、生き生きというところで医療対策とかスポーツが出来るとか、そういうことが東播磨のこれからの方向性として描かれてますが、それについてはそれぞれの課題と方向性とまとめられているわけですが、ここからどうぞ皆様

お好きなようにご意見いただいて、もしご質問があればご質問いただければと思います。繰り返しになりますが現状と課題についてはすでに整理されたところがございますので、それを踏まえて取り組みの方向性についてご意見あるかと思っておりますので、どうぞお好きなところからお願いできますでしょうか。

たとえば軽やかにというところで、移動手段の確保というのが私はすごく気になっていまして、3市2町の方々がお見えになっているわけですが、地域公共交通というのはそれぞれ違ったテーマで課題ですよ、これらを市町域超えてやれますかというところはどうでしょうね、実際。ということなんかたとえば気になります。たとえば共通運賃制度とかできますかというところはどうでしょう。当然それぞれじょうとんバス、たこバスなりかこバスなり3市は運営されていますよね。いずれも全部神姫バスさんですけど共通運賃制で、共通カードでどこまで出来るか、その時の配分。当然それぞれ行政が何パーセントかずつご負担されているわけですがそれは行政によって違いますね、そこをどうするか。実際具体的に考えると色々と課題が見えてくる。これはあくまで一例です。行政の担当者、取り組みの方向性を見ていって、やりたいことはあるけれど実際には、という話も出てくるかと思いません。

委員) 行政の皆様にご意見をいただいている間に発言しますね。防災と減災に関する部分ですが、現状と課題の3番目に地域の災害に対する備えが未だ不確か、と記述されています。その通りですが、おそらく今後は、従来のような備えは家族やコミュニティの変化もあって出来ないと思っておりますので、どう書くか再考が必要ではないですか。もう一つ、現状の問題点として、災害時の人権問題があまり顧みられて来ませんでした。女性やマイノリティー、障がい者らも含めて、あらゆる人を取り残さない「インクルーシブ防災」の取り組みが求められています。

なので、取り組みの方向性としていくつか追記や変更が必要です。たとえば2番目にある災害弱者となり得る高齢者安全対策としてのコミュニティ再構築の部分は、理想ですけど、家族やコミュニティの状況を考えると難しいでしょう。さらに、いまだ「避難する」という行動も、昨今の水害を踏まえて、指定外避難所に行くだけでなく、在宅避難やホテルに行くとか、協定を結んだ事業所に逃げ込ませてもらうとか色々あります。そういう多様な避難のあり方を検討するっていう項目も、先ほどのインクルーシブ防災の取り組み強化とともに、ここに入れておいてはどうでしょう。

それから「復元計画」と書かれているのは、事前復興計画のことでしょうか？
「いち早く日常を取り戻す」のは、どちらかというとなら BCP(事業継続計画)でしょうかね。防災まちづくりでは、事前復興計画という言い方が一般的ですが「リスクマネジメントと復元計画」という言葉を敢えて使っておられるなら、そのお考えを伺いたいです。あまり思い入れがないのであれば、一般的な言葉を使った方が良いでしょうね。

委員長) 行政の BCP がどこまで進んでいるのか私も詳しくは聞いてないですが企業の BCP。特に熊本もそうでしたけど、市役所とかが被害を受けた場合どうか、今度明石市と高砂市は市庁舎を建て替えられますので、その時には間違いなくそういうのも踏まえて作られていると思います。

委員) BCP、それから広域で考えるのであれば相互の受援計画、支援計画などもあるのでしょうか。東播磨全体で何かそういう計画を作るって動きはありますか？

委員長) 東播磨全体で防災を考えるというのは。

副局長) そこはおそらくないです

委員長) 広域防災は兵庫県で考える構想なので。あとは市町でボランティアの受け入れとかそうですけど、ボランティアセンターを中心に、そのとき市町もボランティアの受付をするというのが今のやり方です。

委員) 沿岸部と内陸部、あるいは加古川流域というエリアで捉えると、東播磨を含めていくつか連携のフレームが考えられます。方向性としては、あまり「市町域」にとらわれすぎない多様な防災体制、それから受援—支援体制を含めておく方が良いかもしれません。

委員長) そういうのも一つ、おそらく県民局単位で防災を考えましょうというのは他の県民局はあまりこういう議論はしてないかも知れない。先ほど行ったようにある程度広域は兵庫県、防災センターがある三木を中心でやるといったような。

東播磨というのは比較的人口が多い、全部で70万強ありますよねだいたい。東播磨というのは鳥取県や島根県と同じぐらいの規模なので、広域の防災を考えた方が良いというのはあるかも知れません。

見てみると結構面白いアイデアもありますね。出来るか出来ないかは別として。播磨臨海道の問題というのは、明石は非常に関わるような話です。それぞれいろいろあるかと思えますけどもどうですか、防犯に関しては加古川市が苦勞されてきたところもありますし。

委員) 健康寿命。昨年度うちで市民意識調査をやった時にはやはり健康という部分はかなり市民の関心が高い部分であって、やはり暮らしていくときに、言い方変ですけどピンピンコロリみたいなのがいいのだろうと、皆さん思ってたんじゃないかと思うと、その時に健康寿命というかQOLを伸ばしていくためには何かしていかないといけないのだろうというところですけど、どうしても介護予防みたいな言い方とか外に出ましようとか、地域とつながりましようとか、なかなか直結しないというか住民の方に対して直接的に健康寿命の延伸になかなかつながらないというのを実感してまして、どういった方法が良いかというのは、答えはなかなか難しいと考えています。そうしたときにこういった新しい技術、方法が受け入れられていけば良いと思えますが特に高齢者の方というのはなかなか難しいというところがあります。地域でコミュニティというのがありますがどうしても家からあまり出ないというか、特に今の時期はそういう風潮になってしまっている部分もあるのかなど。良いアイデアが出るというわけではないですけど、そういう部分ではなかなか難しいのではないかなど、大まかな意見で申し訳ないです。目指すべき方向性で20年後や30年後という話をするとき、こういったことを意識しておかないと、方向性がないとそちらの方向に進んでいかないのではないかなど。やはり高い目標、実現できない目標はダメだと思いますが、目指すべき方向がないと進めないのかなど思ったりもします。

委員長) 一つおっしゃったところで言うならば健康寿命、健康長寿を目指すのは介護だけじゃないというのは、ご指摘の通りだと思います。ハイテクやデジタル化と組み合わせるのは効果がある、ただしそれを普及させるにはかなり地域の努力が必要ではないかということ。

副局長) この健康長寿地域を目指すというのは、未来デザイン部会の方で出た意見だと、加古川という季候も良くて平坦な地域、他の神戸などと比べると歩きやすい、自転車にも乗りやすい。外に出るだけで健康になれる地域ではないかという意見が出て、これはこの地域の特性として活かしていくべきだという意見も出て、それに革新的なデジタル技術が実装されて組み合わせれば他の地域よりも図抜けた健康長寿地域が出来るのではないかと。また、加古川を新しい中心としたスポーツも普及されて、スポーツと住みやすさを組み合わせれば健康長寿地域を目指すといった一つの目標が出来るのではないかと意見が出たので入れさせていただいた。

住んでいる人はあまりこの地域がそれだけ良い地域だと思われていない、外から見るとこんな住みやすい地域はないのではないかと思う。

委員長) 目標としては心身共に健康だと考える人の割合が今県下では低いし、心身共に健康であると考えられる人の割合を増やすための方策として、先ほどおっしゃったようにこの地域の良さを活かした方法があるのではないかと、それからデジタルなりハイテクを組み合わせる方法が効果的ではないかということ。病床数の問題とかかかりつけ医の問題、医療の問題はここには地域包括ケアシステムというところに入ってくる。

おそらく副局長のおっしゃったとおりで、なかなか良さが分かっていないので、どうやってそれを示していくのかは重要な課題ですよ。

委員) コロナの問題は全く考えないで良いのでしょうか。私も答えを持っておらず悩みながらの発言になりますが…コロナの問題は、どの枠にも収まりきれないし、東播磨だけの問題ではないのですが、これだけ色々な脆弱性が話題になったのですから、取り組みの方向性として、どこかに入れておかななくて良いのかなとは思いますが。病床数などは病院の話かも知れませんが、たとえば、正しく恐れることは出来ていたのかとか、今回は、感染者への差別があったことも事実なので。今後、そういう誤解や偏見で苦しむ人が出ないように、なにか取り組みの方向性に入れた方がいいのか、それとも地域ビジョンでは全く触れないで良いのか、どちらでしょうね？

副局長) 抜けていますけども、入れるべきだと思いますね。県の方向性がどういう風にそのあたりを入れていくのか分らなかったんで入れていませんけども、委員

のおっしゃるように重要な課題だと思います。

委員) 自治体も今は東京と大阪ぐらいかも知れませんが、支援—受援の話がもっと出てくるかもしれませんし、市域を越えてワクチン接種とか啓発という話になるかもしれない。あるいは自治体の中の部局も、普段からチームで当たるようなやり方とか、職員配置の在り方なども変わるかもしれませんね。

委員長) なかなかこれは国レベルなのか県レベルなのか市町レベルなのか難しいところですが、要は今東京や大阪などに火を消しにかかってきている状況なわけで、これだけ感染が広がってしまうと。ワクチンを打つのは予防ですから、予防は全国一律でも良いけれど、火を消さないといけないところがいっぱい出てきて、そこに注力しようというのが今の 10000 人計画。それはまさに国家としての話。一方市町が出来るのは予防の方になる、火を消すのはなかなか難しい。そこでおそらく、ようやく気がついたわけではないでしょうけども、今までは全部都道府県に投げていたものも、最早行動変容だけではとてもじゃないけど押しえられなくなってきた。そういう意味では国の方が変わる可能性があるので、どこまでこのあたり押しえられるのか不明なところですね。

委員) 感染症を想定して、啓発をしておくぐらいですかね。

委員長) 市町が出来るのは予防の方だけ。

委員) もう少し検討いただければ。

委員) スポーツで生き生きと過ごすというところですけども、先ほど委員がおっしゃっていたように高齢者の方っていうのはやはり健康というところでスポーツをしないといけないというところから、スポーツをやっていくと思いますけども、この前稲美町のスポーツ担当と話をしているときに出てきたのが、スポーツ少年団の加入率が下がってきている課題というのをおっしゃっていて、東播磨全体とか日本全体の話になると思いますけども、加入率が下がることによってスポーツが衰退していく所があると思いますので、課題では生涯スポーツがメインになっていると思いますので、そういう所も入れていくことも必要なのかなと思いました。

委員長) スポーツ団体、組織化みたいなどころですよ。そこに書かれているのは人の増加とか、そういう人たちが活動できる場所の増加とかって話が出ていますけども、活動できる環境には組織化が出てきますから。

委員) 防災減災の所ですけども、既存の住宅の耐震化、東播磨地域では調整区域に大きな家がたくさんあると思うので、瓦屋根の大きな家とか、そのへんの耐震化があっても良いのかなと思います。あと、委員がおっしゃっていたようにコロナ対策の関係と避難所の関係でコロナの対策、感染症という言い方が良いかもしれないですけど、そういったところで現場ではどうするべきかという議論はすでに始まっているところなので、それも含めてどう考えたら良いのかというところとか、東播磨の横の繋がりで行きますと、水道とかは稲美町だと明石市や加古川市と協定を結んでおりまして、細かいところですけどもそういった協定を結びながら災害時の対応を考えていくというところもあります。

移動の不便さのところで行くと、市町域を超えた路線の整備というのは私ども稲美町にとっては非常にこう、バス路線がほとんどないとかいうところで、ただ路線を引っ張ったところで人が乗るのかという問題ありますし、それぞれの交通の協議会の形が違いますので、そういったところの整合をどうつけていくかが課題になっていると思います。あと前伊藤県民局長がおっしゃっていた MaaS の関係がここには出ていないですけども、そのあたりは入れなくて良いのかなとか。

道路ネットワークの整備というところ、自転車通行帯の整備とありますが、県道でいうと歩道がない県道がまだまだたくさんあると思います。歩道を飛び越えていきなり自転車道に行くのかな、とか。

あと健康長寿地域を目指すというところで、現実的にはコロナの関係で落ちているのかな、いままで高齢者の方は外に出て色々活動されていたのがコロナの関係で閉じこもってしまう方がたくさんいらっしゃるって、この間まで自転車に乗っていた人が乗れなくなってしまう。現実的に起こっていますのでそういったところもあってはいいのかなと思いました。

最後に、期間が違うのでどうかと思いますが 3 市 2 町の総合計画がとほとんどすべて SDGs の考え方を取り入れております。この SDGs はこのビジョンの途中で終わってしまいますけども、そういったところは、これも全県的な話になるのでしょうか、入れるべきなのかどうかというところは少し思います。

委員長) 一つは耐震化の話ということ。これは、減災で出たところですね。そうしたものの、もう少し具体的に書くならば、調整区域内の住宅。

委員) 耐震性が弱いという課題。

委員長) 避難所、コロナの話は先ほども出ましたが、前伊藤県民局長がおっしゃっていた MaaS はどうでしょうか。

副局長) そうですね。抜けていました。

委員長) はい。次に県道と歩道の問題。極端なことをいうと、県道は車が通れないようにして、全部自転車道にしても良い訳ですよ。車線を減らすというのは出来ない訳ではない。思い切ったことも出来るだろうからすべきですね。

既にやっているところもありますので、珍しい話ではない。

コロナの関係で閉じこもることについて、これはもしかしたら健康長寿のところに入るかもしれない。

それから SDGs をどうするかという話。これは県の方針もあろうかと思うので、私もお答えいただきたい。

副局長) 私も、資料を作成する前に 3 市 2 町の総合計画を拝見すると確かに入っていた。本庁でビジョンを作っているところは、SDGs にあまり執着していないところはあって、そこはまた本庁と相談して考えていきます。

また、歩道は確かにございません。課題を交通渋滞としたので、歩道が出てこなかった。交通渋滞より交通の安全的な面からいっても歩道は大切ですので入れるべきでしょう。

避難所における感染症対策、これも大事ですので防災減災のところに入れられたらと思います。

委員長) 交通渋滞はここではなくて、4 でも良いのかなと思います。交通渋滞は東播磨道などを想定されている文だと思いますけれど、先ほど稲美町がおっしゃった小道とか人が歩く道ではないと思いますので、むしろ人が歩く道は車が入れない

ようにして自転車と歩道だけにするなど考えられますけれど、考えられるとしたら自転車通勤の趣向は自転車通行帯の整備ではなく健康長寿の方に入ってきて、道路ネットワークの整備は、整備を促すぐらいの方が良いかもしれません。調整していただきますか。4が産業系です。

副局長) 軽やかな動きに引き継がれて。ただ、そちらでもあります。

委員長) 軽やかな動きは人ですね。人に焦点を当てているので。

副局長) どちらかという後半が自動運転とかデマンド交通なのでそちらの方が合っているかもしれない。

委員長) 調整した方がいいかもしれません。先ほど申し上げたようにこの矢印は変えていただいた方がいいかもしれませんが、1は人に注目したところから派生している3つの将来像の1番から派生していますので、もう少し人に合わせた方がいいかもしれません。

委員) SDGsのところですが、将来構想試案6の「価値観の行動と変化」のSDGsが入っているので、骨子案のところに書いてあるのと、全県の将来構想試案にもSDGsが入っているので、これがどこまで具体的になるのかなと思います。

委員長) SDGsをうたうのかどうかというところで、SDGsの理念がどこまで組み込まれているかというところ。例えば環境、車よりも公共交通だというのはそういったものになりますし、委員がおっしゃった人権確保の問題というのもそういった考え方に基づいていますので、そういったところをどこまで汲み取って書いているかということです。

次に2、子育て、教育、働き方改革とおそらく今一番ホットな部分ですし、大きな変化があるところだろうというようなところです。

委員) 2点ほど気になります。一つは先にも指摘しましたが、案では家族ぐるみ、地域ぐるみの子育て、という方向性になっていますが、今すごい勢いで増えている単身世帯とか、子どもがいない世帯とか、多様な家族のあり方を受け止めるみ

たいな話を方向性として挙げるべきではないかと思います。「子育て世代」と呼ばれる若い年代層の中でも、実際に子どもがいる世帯の方が少数になっている地域も、実際にはあります。そういう意味では、多様な家族のあり方を容認すると同時に、単身世帯や子どものいない世帯など、今まで地域とつながるチャンネルがあまりなかったところへのアプローチを考えるというのは、これは間違いなく取り組みの方向性に入れるべきだと思います。

それから、新しい柱が「人を育み、生きがいを実感できる」教育だけになっていますが、前のビジョンにあった「多様性の尊重」や「生涯学習」、生涯学習で学んだことが地域づくりに活かされるみたいところが少し薄くなってしまったのかなと感じます。昨年度に指標の検討をした際、東播磨の場合「何のために学ぶのか」という意識が薄いのではないかという点を指摘しました。であるなら、この地域には高齢者大学、兵庫大学もある訳ですから、そういったところと連携をして、地元の大学や高齢者大学を活かして、生涯学習のところはもう少しプログラムを考えていくみたいなお話があっても良いのかなとは思っています。

取り組みの方向性で、生涯学習や人権教育や多様性にかんする表記があった方がいいのではと思いました。

副局長) 多様性は3の一番下に。

委員長) 外国人などのところに。委員が今おっしゃった家族の問題のところ、確かに家族ぐるみ、地域ぐるみ、単身世帯なら地域ぐるみでというのも出てきますし、それから私も調べてはおりませんがこの辺りは、シェアハウスというのは多くはないのでしょうか。

委員) それも前回出ましたね。シェア経済の話でしたっけ。

委員長) シェアハウスというのは一種の疑似家族という議論が社会で言われている部分でどこにかかってくるのか気になっていました。それと委員、いかがでしょうか。先ほど生涯学習に携わっているとおっしゃっていたので何かご意見あれば。

委員) 生涯学習については、やはり高齢者。昔の高齢者と今の高齢者はすごく違ってきていて、今はすごく個人性を重視する高齢者が多くて、学校に集まってみんな

など同じ事をするというよりは自分の趣味の世界がそれぞれ個別に確立しているものですから、多分そういったものがすごく多様化しているように思います。

そういうものに対応していくのは行政なのか、それとも民間のカルチャーセンター的なものなのか、それとも全然別のものなのかというところがあって、行政が生涯学習にどれだけ携わっていくのが今後のあり方なのかというのが、私が生涯学習に携わっていた5、6年程前からそんな予感がしていました。団塊の世代以降の高齢者は少し違います。というのが、感覚的なものですが。だから高齢者大学というものが良いのか、今のままで良いのかというところも考えていったら良いのかなと思います。

委員長) いずれにしても、人生100年時代のところ、「広がる働き方、生き方、学習、学び方」とかこんな形にさせていただいて、生涯学習という言葉が入ってきたり、その生涯学習の中には、今まで行政が考えていたのは生涯学習を通じて地域づくりを担っていたかどうかという姿だったと思いますけれどなかなかそれは難しいよというところかなと思いますので、その辺りも踏まえて「広がる働き方、生き方、学び方」みたいになっても良いのかなと。

また、方向性として考えているのは、生涯学習そのものは地域活動になりますよ、あるいは地域活動は生涯学習ですよ。地域活動を通して学びにもなるし、学ぶことは地域活動につながっていますよというのは方向性になると思うので、おっしゃったように趣味の世界が何故地域活動になるのかという視点もわからなくはないですけど、全体的にはそういった形になるのではないかなと考えています。

先ほど委員がおっしゃった生涯学習というのは人生100年時代の一番下「広がる働き方、生き方、学び方」のところにさせていただく。あるいは多様性でも良いです。「多様な働き方」というところでも。それから、子育てのところでは家族というところをどうやってとらえるか、「家族ぐるみ、地域ぐるみ」と書いてありますけれど。

委員) 以前はよく「子ども向けの行事をしたら、親もついてくる」と言われていましたが、それももう限界に来ています。そもそも子どもがいない世帯も多いのですから、一人暮らしの方たちも含めて地域活動に参加できるチャンネルを増やすことが、新たな方向性として不可欠だと私は思います。

委員長) この辺りはなかなか新しいですよ。おそらく阪神間ではこの議論は既
にしているかもしれませんね。東播磨でも。西播磨はまだかもしれないけれど。

実は先だって地域のビジョン委員会の中で新長田の六間道で介護付きシェアハウ
ス「はっぴーの家ろっけん」みたいな議論もありましたよね。意識をされている人
は既にいる。

委員) 高齢者施設に地域の人たち、子どももみんな集まってきている。

委員長) 高齢者の職員も一緒に入っている。おっしゃったように、形は高齢者施
設。形は。開放して子どもたちも来たりしている。自分の子育てだけどみんなが関
わってくる。自分の子どもが出来たときに、どういった子育てをしたいかと考えた
ときに色んな大人と接する子育てをしたいと考えて、ではどうしたら良いのかと考
えたのが。形は高齢者住宅ですが、私も実際現場へ行ってお話を聞いてきていま
すが、高齢者だけでなく地域の子どもの外国の方とかが来て場を作っている。特に興
味深かったのはそこで「看取り」までやっている。看取りも家族だけでなくみんな
に看取られて亡くなっていくというようなことまでされている。疑似家族とまでい
うとある意味少し語弊があるかもしれないが、そういうところが新長田にある。そ
んな話も地域ビジョンで出てきていました。なので全く考えたことがない訳ではな
いのかと思って紹介いたしました。

委員) 子育てしやすい環境ですが、活動するにしても組織がないとなっていていま
すけれど、今若い親御さん自身が、子どもの時に子ども会へ入ってなかったりすると
聞いていますので、入らないのが普通になってきている。その辺をどういう形で下
の世代へ子ども会に加入していただけるような仕組みをどう作っていくかはこれか
らの課題だと思います。

委員長) 次のコミュニティの変化にも通じる話ですね。委員の発言は次の3のと
ころに出てくるかもしれない。

チャレンジする教育のところいかがですか。

委員) 3になるかもしれませんが、先ほどの生涯学習について、私は課題解決学
習だと思っていて、この地域は元々住みやすい街で、課題意識が持ちにくい地

域でもありますが、課題意識を持っている方が集まってつながるような場がやはり必要ではないかと思っていて、今までのビジョン委員会でも課題意識を持った方が集まって、お互いに話し合い化学反応を起こして色んな活動を興していくというのが出来ていたのですが、コロナ禍になりこの10期はそういった活動が出来ないという課題がありましたので、次のこの1年はネット上でもビジョン委員会の中で課題意識などを共有しながらやっという流れになっています。次の交流にもつながるかもしれませんが、3市2町でも市民が共同で課題解決に向かっていく、補助金を出す取組も色々ありますので、そういう横の繋がりでこういう課題を解決していくことも必要ではないかと思っていましたので、そういった視点も入れていただけたら。

委員長) 多様な働き方、生き方、学び方の中に地域の課題解決や学びも入れていく。

それでは、次の3「伝統と文化が息づき、交流が広がる」に移ります。特にローカル志向はどうかまだわからない中で市町の皆さんも社会増を狙って施策を打っておられますのでこの辺り、どうでしょうか。

地域の愛着は、この地域ではあまり高くありませんでしたよね。「これからも住み続けたい地域」6位です。先ほど委員もおっしゃったように良い地域ではあるけれど、尖っていないのでなかなかそう認識されていない。「これからも住み続けたい」が愛着と言っているかはわかりませんが、普通に良いところだったら住み続けたいでしょう。

副局長) 祭りはこの地域ではかなり愛着を持っていただいている。

委員) 兵庫県の話になってしまうかもしれませんが、上から3つ目の「新たな担い手の呼び込み」、呼び込みとなると他の地域から呼び込むというイメージが強いのですが、中身はどちらかというと「新たな担い手の育成」の方のイメージがあります。「新たな担い手の育成」にした方が理解されやすいのかなと思いました。

委員長) それは後で修正しましょう。

委員) 今の担い手とか、コミュニティ機能の低下とか、方向性2と3に入れ込ん

でいるような気がしないでもないですね。「交流が広がる」というのは観光などの対外的なイメージでしょうか？ 地域コミュニティの維持という話ではなくて…。

副局長) そうですね。外国人もそうですし、そこから多様性につながる。

委員) 伝統と文化のところに外国人が入ってくるのも少し不思議な感じがしますね。どちらかというとい異文化交流とか多文化共生とか。

委員長) 先ほどのご意見にもあった、コミュニティを下に含める形が良いのか、それともむしろ2の「ひとを育み、生きがいを実感できる」の方が良いのか。

委員) 以前は「楽しいまち」の項目に全部出ていましたよね。

委員長) 確かにコミュニティをどう捉えるかは色々ありますけれど、場合によってはコミュニティのところは2でもいいかもしれません。3の「伝統と文化」はおそらく「祭り」がキーワードになってくる気がするのです。実際お祭りを担っているのは、そういうコミュニティシステム。祭りのためのシステムがあつて、それは自治会などと極めて密接な関係性であつてというのが特徴だけれど、一方でこのエリアは先ほどおっしゃったように余所から入ってくるエリアでもあるので、その辺りも難しいです。

副局長) アンケートを採ると、コミュニティが前提として回答が祭りばかりになる。この辺りは丹波育ちの私からすれば、理解が出来ない。

委員長) これは多分中播磨も同じだと思います。それがこの地域の特徴。播磨は祭りという特徴がどうしてもありますから。

委員) 2050年に祭りが残っているのでしょうか。

委員長) コミュニティの位置づけというのも関係あるので少し考えさせていただいて、地域への愛着というものをどう捉えるか。伝統から地域の愛着を育むという考え方、一方地域の愛着というのは伝統以外にもあるので、別に1対1じゃないと

いけないという訳でもない。伝統と文化が地域への愛着にもなるし、副局長がおっしゃったように住みやすいから愛着が生まれるというのもある訳なので、捉え方は半々だと思うので分けるところは分けるというか、二重の表現ではないと思います。意味が違いますので、そういう風な捉え方も出来るのではないかと思います。

そうすると後は観光について、伝統や文化など活かした。やはり祭り。祭りがもっと集客力があって、姫路の灘のけんか祭りなどは集客力を持っていますから、考えられるかなと思います。

委員) ローカル志向というところで、ローカル志向という言い方が少しネガティブっぽいなと私は感じました。ただ、言われているようにテレワークとか、今後働き方自体が変わってくるでしょうから、出社しない方も増えてくる筈なので、そういう時に選ばれるというか、電車に乗って出勤しない人が増えるのは当然になってきますのでそういった時にどういったことをすべきかというのは組み込んでいった方が良いのではないかと考えております。

また「コミュニティの形の変化」というところですけど、これは方向性というところでいくと変化というのは何を指して変化するのだろうかというところが少し見えにくいのかなと。やはり皆さんがいきいきと暮らしていただくためにコミュニティの形をどのように変えたいかという部分が見えた方が良いのではないかなと思います。

3つ目のデジタルツールとかアナログ的なのというところが継続していくというかミックスされていくのではないかなと。融合するとか相乗効果が生まれるとかになるのではと思っています。それは実感として、家族同士のつながりであったり、地域同士のつながりが家にいながら出来るのはデジタルツールでやっていくとか、そういう部分になっていくのかなと思っています。

委員長) 先ほどあった「変化」という言葉。これはやはり方向性を考えるのであれば、どういう方向に変化をさせていくのかという。コミュニティの形が変化する中で、それに対応することというのであればその中から選ばないといけないし、変化というのであればどうコミュニティの形を変化させていくのかということがあるのではないか。

委員) どうでしょう。皆さん30年後の意識が、想像するのはなかなか難しい。

私個人の考え方ですと、ある程度今の時代の人などはプライベート、パーソナルな部分があって、昔よりかなり広がっているのではないかなと。昔は多分 1m ぐらいの距離で話すというのが良かったでしょうし、下の名前で呼び合うというのも当たり前だったでしょうけど、自分の世代もそうですし、自分より下の世代はその距離感が離れていますけれど、今の若い子は仲が良い人の距離感はすごく近くて、地元が好きなのは本当に地元が好きですし、仲の良い子とは本当に仲が良いけれどもそれ以外の人には「LINE で繋がっているだけ」とかぐらいの感覚なのかなと思っていて、そうした時のコミュニティってどんな形が良いのだろうという距離感のところは難しいかなと、日々若い人と話していても違うなというのは思うところです。

委員長) どこかにキーワードがあったかな。少なくとも変化しますではなくて、どういう方向にとというのは入れないといけない。

委員) はい、最終的には全ての方向性というところはメッセージ性っぽく変えられるだろうというのは想像しておりますけれど、何か前向きにといいですか、何々に向かいます、目指しますというような書きの方が良いのかなとは思っています。

委員長) あと、ローカル志向という言葉、こちらはどうでしょうか。ローカル志向を使った意図などあればご説明ください。

委員) 否定をしている訳ではなくて、ローカル志向って「田舎を目指しています」と「田舎化しようとしています」というように捉えてしまって、今ビルが建っていますとか、都会的な街がありますとかがローカル志向という、そこから離れてというイメージを持ってしまったので。イメージだけです。

委員長) ローカル線とか。

委員) そっちの。変な言い方かもしれませんが寂れているとかそういうイメージを持っただけです。

委員) とはいえ、「グローカル」という言葉も死語に近いですからねえ。「地元志

向」という言葉を最近使うようですが、それだけで良いのでしょうか？

委員長) それだけではない。先ほど委員がおっしゃったところは、この地域の特徴的なところで、この地域だけではないと思いますがいわゆる「マイルドヤンキー」という言葉が生まれたのもこの地域ですよね。高砂。ですからマイルドヤンキーというのはこの地域をものすごく愛していて、逆に言うと東京では勝負にならない人でもあって、でも地域が住みやすいから大好きというところとここは嫌だというところが結構混在しているところが特徴。おっしゃったように、単なる地元志向ではないし、前に書いてあった、出ていってもまた戻ってきてくれるというところをイメージされているのであれば、地元志向とは違うところかもしれません。

委員) ビジョンの書き方として「地元に残れる」というのは大事な方向性ですが、2番目の「ひとを育み」というところを見ると、この地域で育って世界で活躍する人材を育てるための教育—という話もあるように思います。必ずしも100%地元に残るよう育てる、というのが良い教育か—というの違いがありますよね。世界で活躍出来るような逸材を育てる地域という価値もあるわけで、そのあたりをどう表現すればいいでしょう。

委員長) 要は世界で活躍して、ちゃんと地元に貢献するために戻ってくるのが望ましい姿かもしれませんがね。

委員) チャレンジする教育は、誰がチャレンジするのかがピンと来なかったですけど、行政がチャレンジするのではないですか？チャレンジ出来るような環境を整えることなのかなと。言葉だけの話です。

委員長) そうですね。書き方の問題ですね。

委員) このビジョンは行政、県民局ではなくて、民間の取り組みも含めてですか？

委員長) 1人1人がということです。

委員) だから、余計に主語をはっきりさせないと分かりづらい。誰が、やるのという。

委員長) コミュニティは少しここに入れるのか2の方に入れるのか、もう一回検討でよろしいですか？

「祭りは伝統なので」ということでここに入れてらっしゃるけれど、入れ方は色々あって良いと思います。伝統文化だったらコミュニティをどう育成していくのかとか、コミュニティというのは委員がおっしゃったように色んな方が好き同士集まるコミュニティもある訳なので、そういったことを踏まえてここだけにまとまらないワードだと思いますので、そこは考えた方が良いでしょう。

それからローカルという言葉はなかなか良い言葉が出ないですけども、何か思い付いたことがあればいつでも結構ですので。確かにローカルだと、言葉としては、わかりにくいというのは確かにあります。英語でローカルですと、リージョナルな地域、狭いエリアという意味で、ローカル、リージョナル、ナショナル、トラディショナルというイメージなので、ネイバーがあつて、ローカルがあつて、リージョナルがあつて、ナショナルがあつて、トラディショナルというようなイメージ。ですからそう考えていくと、中央セントラルはローカルの対で、東京などのセントラルに対してローカル。中央集権を考えるのだと思うのですが、ローカライゼーションのローカル。地方自治化とか、地域化とかローカル化と言いますが、おそらくその意味で捉えていらっしゃるでしょうけど、言葉として少し違った意味に捉えられかねないので、良い言葉があればまたお考えください。

委員) 地元と関わる観光の所の1点目でプロモーションの発信力を高めるようなことですが、現時点で各市町の方でそれぞれSNS等を使ってPRは十分されてらっしゃるかと思います。その発信力をさらに高めるという形で具体的にどんな手法を用いるかといったところも、もう少し詰めていった方が良いでしょう。それか、東播磨の県民局エリアの単位で、ひとつ3市2町の情報の載せ合いをするイメージでいくのか。その辺りのイメージがつきにくい。

委員長) 東播磨ちゃんなどああいうものをまた考え出したら。先ほど委員がおっしゃった、各市がやっているのとは別にこの地域でPRしていく。

副局長) この辺りでいったら、3市2町のHPを東播磨、県としての観光のHPを作ってみようとは思っています。

観光が弱いと思うので、地域横断的なものが何かないかなと私個人は思っています。みなさんのお知恵を借りながら。

委員長) 観光産業のイメージですか？観光産業なら次の4のところになりますし、観光というのは観光産業なりを考えていないと。単にこの地域が好きになってくれたら良いですというのであれば、ここでも良いのかなという気がするのですが。

観光産業となってくれば宿泊とか、産業化していく仕組みが一つ必要になってくる。

副局長) この地域は日帰りが多いと思うので。産業とまではいかないのですが、方向性は交流ですので、交流で人が増えるような。

委員長) 地元と関わる観光。ツーリズムでもない訳ですよ。観光ではなく交流ですよ。他地域との交流を考えていこうという。委員がおっしゃったように、どう発信してくかがすごく重要になってきます。観光であれば全く違う発想になってきて、観光施設をどうするのか、観光バスをどうするのか、という話。産業として考えていかないといけない。そうでないならば、発信をどうするのかという話になってきます。この地域で観光というのはなかなか難しいですよ。

次の4はいかがでしょうか。こちらは産業系のところなので、道路、渋滞解消はこっちに持ってきても良いかなと個人的には思っていますが、それ以外のところで結構ですので何かあればお願いします。

ものづくりというのは今回どこで入ってきますか？ここでしか入ってこないでしょうけど、ここに出てこない。多分これがものづくりだけど。一番大きなテーマですよ。水辺ともものづくりでつながる未来。そのものづくりがこれだけで良いのかなというのは気になっている。間違ったことは書いていないので。ですから、ここは製造業の売り上げに関しては神戸では造船のあたりで厳しくなっていますから、そうなってくれば製造業の地位は相対的には上がる。その辺りを書いているのはよくわかりますけれど、大きなテーマがものづくりというところになるにはこれでいいのかなという。全体的な話です。

委員) 大きなテーマは決定なのでしょう。水辺とものづくりというのに、私はすごく違和感がある。2050年、いいのか。むしろものづくりからことづくりへみたいなのが、トレンドですよ。

委員長) そうですね、明石、加古川、高砂の順で製造品出荷額は多いので、明石市からいかがでしょうか。

委員) なかなか産業は難しいと考えていまして、地域創生でも人・モノ・仕事という話があって、やっぱりその地域に仕事がないと人が住めないというところがあるので、そういった分野で産業であるとかデジタル技術は地域にはないと、とは考えていますが、例えばそれを行政側が促していく取組というのは非常に難しいと思っています。

今回あがっている項目がどうしても個々のロボット産業とかでしょうけど、どういった取組をしていきたいと思いますというものなのか、それともロボット産業を促進しましょうという個別の産業を育てたいのか、どちらの方になるのかなど、大まかに読んで思いました。人中心で仕事の間を作るための産業が必要ですよと言っているのか、地域としての産業をもり立てていかなければならないというような立場なのか、どちらの立場に立った方がいいのかなど感じるところです。

副局長) どちらかというと後者の方。地域として今のものづくり産業をどういう方向に持っていったらいいか。エネルギーは、2050年バイデン米大統領が言っているような成長する産業ではあるけれど、それを東播磨地域に根付かせるにはどうしたらいいか、みたいなことを。

これはビジョンなので必ずしも行政だけがやるものではないです。企業にも考えていただいて、民間も含めてこういう取組をしていくという方向、羅針盤みたいなものになればいいかなど。

委員) そういう立場で企業であるとか住んでらっしゃる方が、この地域に新しい産業が生み出されて新しい技術が出来る街だとか、他の市でも例えば新潟県の燕市とか電子産業が盛んで皆さん誇りを持っておられると思います。そういうところがあったら、そこが発展しているからこそ幸せだなと感じることが出来ると思います

ので、取組として進んでいけばいいなと思います。

委員) 先ほどのご説明で民間企業も含めてビジョンということでは理解が出来ますけれど、4点目で若者や女性、高齢者、UJI ターンなどとありますが、移住・定住の関係でいうと東播磨はあまり西播磨や淡路、但馬などに比べると弱いかなと思います。そういった中でどういった促進をするのか。促進はしていかないといけないでしょうが、難しいのかなという気もしなくもない。

副局長) そうです。移住や定住の人が少ないので、こんなに住みやすいところなのに何故少ないのかなと。阪神間にも通いやすいし。かえってそこをもっと PR してもっと人に来てもらうようにしたら良いのではないかというような発想です。

今日の神戸新聞の神戸版にも出ていましたが、垂水区や北区はどんどん移住者を取り込もうと施策を練っている。神戸市内でもそうやって移住者を取り込もうとしているところで、東播磨も是非やるべきではないかなと。ただ、高砂市がおっしゃるように難しい部分はあると思う。その中でどういったものを作っていったらいいのかということの下の方に空き家が空いているなら空き家でといったような色々な事業が出来るのであれば。色々な発想を組み合わせながら、この地域にも人を呼び込んでいけるようにしたい。

委員長) 北区は空き家が結構多くて、古い住宅で規模が大きくてなかなか入りにくかったり、大きな家だけど昔に建ったので実は駐車場がないなど、古くってというのはニュータウンが設計された当時、歩車分離型で車がいらぬという発想でニュータウンを造ったと聞いたので。そういうところでも、ということであれば東播磨でもということですね。

仕事がないと住んでくれませんかから、その仕事づくりのために起業を促進していきましょうと。考えとしては、よくわかるなと思います。他、デジタル化などございますがいかがでしょうか。

委員) 産業というところもありますけれど、東播磨地域自体特徴がないところが特徴と言いますか、「何？」と聞かれても答えにくいようなところがありますので、既存の部分伸ばしていくにもパワーがいるかなというように思いました。

あと先ほどから空き家というキーワードもあるかと思いますが、東播磨地域

は全て都市計画区域で埋まっておりますのでなかなかその活用が難しいというのが現実。実際住居を店舗、事業所とするのに用途変更が伴いますので、そういったことが出来ないというのがネックになっていきますので、そういったところの方向性というのも30年先を目指すビジョンであったら示せるのではないかと思います。

委員長) 東播都市計画。

委員) 淡路は白地で、何でも用途変更出来ていきますけれど、この辺りは用途変更の融通が利かない。そういったところが現実的にあるので。

委員長) 高砂市は調整区域で苦労されていますよね。515号線が調整区域というのは知らなかった。県道にあたるので大体3年に1回用途変更の見直ししますが、その辺りの柔軟な対応は可能なのでしょうか。

副局長) その辺りはちょっとまだ。30年後どうなっているかはわかりませんが、今では柔軟性に欠けていますね。ただ、一番下の○の一番上の・のところ、そういったところを見越して、人口減少、土地利用の再整理、地域特性を活かした効果的な土地利用などは前回も委員からそういった指摘を受けましたので、盛り込む形にした。それでも、30年後どうなるかはわからない。ですけど人口減少は確実。

委員長) 私も色々に関わりを持つ中で思うのは、若い方に来てもらいたい、若い方に住んでもらいたい。どこに住むのとなった時に新しい住宅地を造って、そこに若い方が集まるというのが私の中のイメージです。若い人はそう。若い方が来るときに、古い町並みがあるところに来るかという来にくいですよね。だったら、40戸ぐらいの新しい住宅地があって、そこだったら若い人が来る。幼稚園が近くにあって、というのであれば来ます。白地になるところを市街地にするなり、あるいは地区計画で難しいでしょうけど変更できるのであれば、そちらの方が良い。ただ一方で、副局長がおっしゃったように本来人口減少してくれば、市街化区域は狭めざるを得ないのでその辺りの矛盾ですよね。一番望ましいのは例えば京町がやっているように若い人が興味を持つような注文住宅が出来るような仕組みが出来ていればいいけどなかなか実際難しいですし、そういう意味だと本当この地域は多様な

ところで土地が色々あるけれど、その土地を使って住宅地を造ったら絶対に人が来るだろうけれど、それが出来ない。一方で、空き家が沢山あってどうしようという問題が出てきている。空き家も良い空き家ばかりではなくて、耐震性の問題があったりしてなかなか難しいという。これもある意味東播磨の特徴かもしれない。

少なくとも土地利用に関してはここに書かれている人口減少に応じた土地利用の再整理とかあるいは柔軟性を書かせていただくことで少し対応が出来ると思います。

委員) それを補強するような表現が必要ですね。前回、確か都市のスポンジ化の問題からスマートシティやコンパクトタウンを目指すという話が出ていました。いま委員長がおっしゃったようなミニ宅地開発が進むと、30年後にまた同じことが起きてしまうので、多様な住民が住まうミックスユースドの考え方も取り入れた方がいいでしょう。それから、播磨町が一部やってらっしゃるような住宅のリノベーションも可能性が大きいと思っています。終の棲家ではなく、若い人たちがアトリエ感覚で住むとか、シェアハウスとして使うとか、チャレンジキッチンとして使いこなすとか、多様な住宅利用の可能性について盛り込むのも良いかな、と思いますね。

今、「・」の一つ目である程度、書いてくださってはいるけれど、住居に関しては長寿命住宅のことしか書かれていないので、中古住宅の多目的利用みたいな話もあっても良いのかなとは思いました。

委員長) 大きな中古住宅を学生寮にしようとしても、駄目と言われる。

委員) グループホームとかにした方が活用しやすいですね。

委員長) 意見はまだあるかもしれませんが、「5 自然を行かし、資源が循環する」に移ります。今日一旦全体を見直してご意見賜りたいと思います。資源の話、環境問題も含めて書かれています。前に出た水素社会というのは。

委員) 未来デザイン部会の方で出ているのでは。

委員長) 未来デザイン部会の方ですか。

委員) 環境の問題になると思いますけれど、例えば最近よく言われている、ノリ
の色がつかないとか、イカナゴが不作であるとかそういったところ。キレイになり
すぎたというところが東播磨で出てくるのかなと思います。それが一つの問題かな
と思うのと、農業等の後継者不足、担い手不足になりますが結局のところ何故後継
者が出来ないかといえば儲からない。しんどい割には儲からないというのが現実
にあります。あと、スマート農業が出来れば省力化出来ますけれど、機械を入れるの
にかなりの投資が必要になってくるというのも現実的にある。そういったところを
どうカバーしていくかはなかなか。農業は一言では片付けられないなという風に思
いました。難しい問題。

委員長) 稲美町は農業が重要な産業と位置づけられていますので、その辺りから
出たご意見だと思います。後継者不足の問題は課題解決が難しいですが、稲美町で
は起業は進んでおられますか？

委員) 法人化はしていきますけれど、地元の営農組合が法人化しているだけであ
って、あと10年すればおそらく担い手がなくなる。担い手の役割をしているのが
70代以上。70歳で若い人と言われているぐらいです。そういった方々がいよいよ
農業が出来なくなってくるのが10年後。今の60代の方が10年後70代になっ
て、農業をするかといってもおそらくしない。かなり深刻な問題だと思っています。

副局長) 丹波市の柏原だと全くの都会から出てきて農業を新しくされる方もいま
すが、稲美町でそういった方はいらっしゃいますか？

委員) ないですね。いわゆるトラクター一台にしても300万~400万しますの
で、そういったものを導入してまで農業するのかというところと、丹波などに比べ
ると一軒の農家が持っている農地面積が少ないです。なのでそういったところを集
約しないと、結局外から入ってきたところで高い機械を購入して儲かるかとい
うと、赤字が続いていく。これもこのあたり独特の問題。1軒あたりの面積が少な
い、にも関わらず労力はいる。

委員長) 今、平均平米数はいくらですか？

委員) おそらく 4,000 平米とか 3,000 平米とかそのあたりになってくるかと思います。1 ヘクタールあれば大きい農家になってきますので。

委員長) 1 ヘクタールあれば収入というか入ってくる額が一千万超えるので、先ほど言ったようにある程度あれば 500 万、600 万ぐらいで生活が出来ますけれどそういうことではない。

委員) 1 ヘクタールある家は数が少ない。丹波だと 1 ヘクタールだと小さな農家になると思います。

委員長) 生産性を上げるための法人化、企業化、集約化。やっぱりしっかりしておかないといけない。先ほどおっしゃった水産業はいかがでしょう。書かれてはおりませんが。

副局長) ないですね。海辺の話があまりない。

委員長) 先ほど、貧栄養化。これは淡路でも課題になっていた、かいぼりしなくなったからだとか栄養素のあるものを全部河川がせき止めていますから、それが海にいかないという。海と山の接続という意味でいくと、水辺という言葉がキーワードになるのでそのあたりをもう少し入れようという話で。

委員) 前回のビジョンは「ため池」がかなり大きい部分を占めていましたし、指標でも水辺にかんすることがありましたが、今回は少ないですね。ため池の動向の話とかは、「現状」のところに入っていないといけないのでは。

委員長) 現状のところに入っていない。水辺というと、ため池とか河川とか海とかが入っていないとやはり。

委員) ため池の話も書き、さらに取り組みの方向性としては委員長がおっしゃったように山・川・海の連携が必要かと思います。

委員長) 水辺のところは理念に関わる話なので、重要なのかなど。よろしく願
いいたします。

委員) 前回、農業は「力強いまち」で産業に入っていました。それを今回は自然
のところに持ってきていますね。その意図は何でしょう？ 反対するわけではない
ですが、変更の理由を伺いたいです。

副局長) 方向性で「自然を生かし、資源が循環する」としましたので、自然に直
結するので農業はこちらへ持って来ようかなというのと、農業を持ってこなくても
方向性5自体が少ないというのがあったので。

委員) なるほど、漁業と農業をこちらへ持ってきた、と。

副局長) また、「資源が循環する」なので出来るだけ地産地消の観点は農業とし
て取り組んでいきたい。方向性の中で「自然を生かし、資源が循環する」のは農業
かと。

委員長) 先ほど申し上げた、水辺ということでため池ですとか加古川をはじめと
する河川、災害時も河川は関わってきますが、ここではないので。1なので少し違
いますけど。水辺はキーワードなので特にため池は入れておかないと。東播磨のキ
ーワード。30年後にため池が全部なくなるとは思えないので、多目的利用をどこ
でするかは難しいところで、委員がおっしゃったように農業をやる人がいなくなれ
ばため池管理は出来なくなりますから、そういう意味ではため池管理は急ぐ話で
す。今、寺田池ですら草刈りが出来ないでいる状況ですから。ため池の所有者は行
政かもしれませんが、管理は農業者の方になって、農業をやる人がいなくなれば当
然管理も出来なくなってくるので、大きな問題。これをどうするかは、委員に聞い
たらいいかもしれませんが、また聞いていただいても結構です。ここはまだ課題が
残るかと思います。よろしく願います。

1~5まで取組も含めてご覧いただきましたが、先ほど申し上げた理念や将来
像、方向性についてご意見ありましたら。

委員) 方向性5のところ、農業と水産業を扱われるのであれば、方向性4の産業というのは、産業というのはどこまで含むのかということにならないかなと見え方が少し気になったのですが、いかがでしょうか。

委員長) 先ほど委員がおっしゃったようになるのですが、要するに「循環」というところにキーワードを置けば、地産地消とかの話で農業や水産業などの第一次産業は5に入るけども、産業という目で見たら4ではないかということですよ。

先ほどの話、理念が水辺とものづくり、理念のところ、第一次産業と第三次産業を分けています。第一次産業はある程度方向性5のところに入っていて、ここは水辺を生かしていく。先ほど言った山と川、海といった大循環というイメージ。ものづくりは産業のところに入ってきて、産業のところをフォーカスするために人やICTといったものをどう活用していくかが課題。思い切ってやっても良いかなとは思いますが。

そうすると観光が伝統の所に入ってもおかしくはない。

委員) 書きぶりとしてICTと観光以外の第三次産業が弱いといえば弱い。東播磨も第三次産業の就労者が一番多いと思いますけど。

委員) 課題にあがっていなければ結構ですが、我々のところに里山や森林が放棄されているという相談がたまにあって、県民緑税、森林環境譲与税というのを取って森林の環境を守っていきましょうというのがあったりして、先ほど農業や水産業が出ていたので、林業は？と思っただけです。そうしたときに里山を地域で、みんなで守っていきましょうというような取組というのはあったりするんで、どこかに環境の部分で森林を守りましょうとかそういう部分が入るのであればちょっと加えていただいても良いのかなと思いました。

委員長) ため池や里山もそうですが、一種のコモンズ、共同財産。その管理が難しくなって、里山もため池と同じような、種類は違うが課題は一緒で、これまで里山というのは所持者がいて所持者が管理をしてそれは財産だから、薪を取ってきて火にくべるとか出来ていたのが良かったけれども、今は薪がいりませんから、管理だけになってくる。

ため池も一緒に、農業者が水を使うからため池を管理していたけれど、今は別にいらぬ。けれど、農業者だからやらないといけぬということ、嫌になってきているという。そういう意味でいうと、おっしゃる通り何か考えていけぬといけぬかもしれません。循環に入るのかというところと難しいですね。むしろコミュニティとか、伝統とか。先ほども申したとおり、「循環」というのはある程度働き口が出来るたりお金が稼げたりというのがある程度想定されているけれど、今出ているため池などはむしろどうやって維持していくかというところですよ。

委員) 現行ビジョンでは「美しいまち」の部分に「人と自然が共生し、生態系を保全できる」という目標があったので、現状として書き込むことは出来ると思います。「現状と課題」については、現行ビジョンのフレームで議論しないといけぬと思うのですが、方向性の部分では新しいビジョンの中に組み込むので、フレームが変わってしまっています。なので、現状分析として、実際は出来なかった取り組みは、左側に書くことになるのかな。柱が変わってしまっているの、どう表記すればいいか、少し悩んでいます。

委員長) そのとおりです。だからこそ、解決策のところでは分けぬといけぬ、今まで産業で分けていたものを農業などに分けて、循環というのでもここで稼ごう、仕事をしようという話であれば方向性4になりますし、里山の管理は農業では無理だからもしかしたらコミュニティかなとなればまた方向性が変わる。そういった考え方。委員がおっしゃったように今までの制度と若干変わってきているので、そこを少し。

委員) コミュニティに期待される役割の中に、今は「福祉的な見守り」しか入っていないけれど、今後は、地域の資源管理とかコミュニティビジネスの可能性も含めて書いていく、という感じでしょうか。

委員長) 委員、この間兵庫大学の学生がステーションで発表したのはそういうことではなかったか？

委員) そうですね。ビジネス化というところの。話にもありましたとおり、地域の見守る人たちが高齢化していつて抜けていつてしまうというのは課題としてある

ので、それをどういう風に解決していくか。

委員長) 解決の方法もどうでしょう。例えば、「循環」で稼げるとなれば、純然たる技術でいける訳ですよ。そうではなくて難しいから、行政も絡んでいきながらコミュニティビジネスでやりましょうかとなるとコミュニティ。解決する方向を考える。

委員) おっしゃるとおりで、なかなか分野的に難しく、今まで所有者がやらないといけなことを出来なくなってきたところ、どの分野でも公の問題になってきている。空き家もそうですし、昔でいうと介護もそういう感じがします。親の面倒を見るのは子どもだとなっていたから介護保険が生まれていった。それで公の仕事となっていたのだからと考えているときに、次の課題としてそういうものが高齢化になり、担い手がいない農業もそうですし、人もちゃんといくのかという難しいだろうなと思ったりしながらやっている、解決策。取組の方向性から解決策を考えるのか、現状と課題から解決策を考えるのか、ちょっと難しい。

委員長) 今の課題の見つけ方は4つの将来像から。それを解決する方向性は5つから考えていくということで、分野別というところで方向別というところで分けている。事務局も何かありましたら。

事務局) 私はここへ来る前に阪神北県民局で働いていたことがありまして、阪神北では「里山」が地域のキーワードになっていた。里山を使っていかに地域を磨いていくか。里山が確かに人の手が入らなくなって、どんどん荒廃していつていきますので、それを食い止めようというところから地域おこしを始めた、今度それをビジネス化しようとしたというのを、今お話を聞きながら思い出しました。

今回皆さんからご意見いただいて、なるほどと思うことが沢山あって、良いものに仕上げていきたいと思っておりますので、私自身勉強不足なところもありまして皆さんから教えていただくことばかりですが、また今日いただいた皆さんのご意見で、より良いものを皆さんにお示ししたいと思っております。

委員長) 今日初めて参加された方も多く、どんな議論をしているのかと思われた

ことと思いますが、こんな形です。

市町行政と県行政、環境からコミュニティまで、そういう意味では市町の方から見たら「こんな議論までするの」というのがあるかもしれませんが、このあたりご承知いただいた上で、これからまた議論いただければと思います。今日いただいたご意見はまた整理させていただきますが、これ以外にも気がついたこととかあれば事務局の方に、メールでも何でも結構ですのでおっしゃってください。この情報は各市町の部局内で共有していただいても構いませんので、見ていただいてもよろしいでしょうか。特に企画部局の方が多いので企画調整の中でもお話を聞いていただいてそういったことも踏まえて事務局にお出しいただくと整理が出来るかなと思いますのでよろしく願いいたします。そうしましたら今日の議論を踏まえまして取組の方向性をもっと具体化したものを作成します。これによって30年後の将来像などを実現していく、3つの将来像の背景を積み上げていきたいと思っております。